

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成28年2月25日(2016.2.25)

【公開番号】特開2014-187943(P2014-187943A)

【公開日】平成26年10月6日(2014.10.6)

【年通号数】公開・登録公報2014-055

【出願番号】特願2013-67032(P2013-67032)

【国際特許分類】

A 01 F 12/46 (2006.01)

【F I】

A 01 F 12/46

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月5日(2016.1.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

ディスプレイ45は、穀粒タンク15に貯留された穀粒の『貯留体積量』を表示する『貯留体積量モード』、エンジン11における燃料噴射量の積算値である『燃料消費量』を表示可能な『燃料消費量表示モード』等の複数の表示モードが備えられている。ディスプレイ45は、不図示の切替スイッチの短押操作によって特定の表示モードから他の表示モードへと、順繕りに切替可能に構成されている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

選択部50は、排出クラッチ42、株元センサ26、回転センサ23の各状況に応じて、『貯留体積量モード』におけるディスプレイ45に、リアルタイムの『貯留体積量』、確定された『貯留体積量』のいずれを表示させるべきかを選択する。選択部50は、排出クラッチ42、株元センサ26、回転センサ23、演算部51に接続されている。選択部50は、通常、『リアルタイム表示信号』を演算部51に出力し続けている。但し、排出クラッチ42が切り状態から入り状態になったことを確認すると、『記憶指令信号』を演算部51へ出力するとともに、『リアルタイム表示信号』の代わりに『確定表示信号』を演算部51へ出力し続ける。そして、選択部50は、この状態から、株元センサ26が検出状態になり、かつ、回転センサ23が駆動軸の回転を検出している検出状態になると、再び、『確定表示信号』の代わりに『リアルタイム表示信号』を演算部51へ出力し続ける状態へ復帰する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

演算部51は、重量センサ28および品質センサ27からの情報に基づいて穀粒タンク

15内に貯留された穀粒の『貯留体積量』を演算する。演算部51は、重量センサ28、品質センサ27、判定部52、表示指令部55に接続されている。演算部51は、重量センサ28により計測された穀粒タンク15の重量から、穀粒タンク15の風袋重量を減算して、穀粒タンク15内に貯留された穀粒の『概算重量』を演算するように構成されている。そして、演算部51は、品質センサ27により測定された穀粒の水分値やタンパク値に基づいて、記憶部57に予め記憶された穀粒の水分値やタンパク値等に対応した『比重値』を読み出す。そして、演算部51は、重量センサ28による計測に基づく穀粒タンク15内に貯留された穀粒の『概算重量』と、品質センサ27により検出された穀粒の水分値やタンパク値等により決定される『比重値』と、に基づいて、穀粒タンク15内に貯留された穀粒の『貯留体積量』を演算する。演算部51は、選択部50から『リアルタイム表示信号』を入力している間は、『貯留体積量』をリアルタイムに判定部52および表示指令部55へ出力し続けるように構成されている。また、演算部51は、選択部50から『確定表示信号』を入力すると、排出クラッチ42が切り状態から入り状態になる直前、すなわち、排出オーガ41が作動される直前時に演算した貯留体積量を確定された『貯留体積量』として記憶部57に記憶させる。そして、演算部51は、選択部50から『確定表示信号』を入力している間は、表示指令部55に、『読み出表示信号』を出力し続けるように構成されている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

変更部54は、判定部52に設定された『閾値』を『新たな閾値』に変更する。変更部54は、入力装置44、判定部52、通信部53、に接続されている。変更部54は、入力装置44から『新たな閾値』の入力があると、判定部52において設定されている『閾値』を『新たな閾値』へ変更できるように構成されている。変更部54は、外部サーバ60から通信部53を介して入力された『新たな閾値』等の含まれた情報に基づいて『閾値』を変更可能に構成されている。つまり、変更部54は、通信部53から『新たな閾値』が入力されると、判定部52において設定されている『閾値』を『新たな閾値』へ変更できるように構成されている。変更部54は、入力装置44と通信部53とから同時に『新たな閾値』の入力があると、判定部52において設定されている『閾値』を、通信部53から入力された『新たな閾値』へ変更する。また、変更部54は、入力装置44から『新たな閾値』が入力されると、入力装置44によって『閾値』が変更された事実および変更後の『新たな閾値』等が含まれた変更結果の情報を通信部53へ出力する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

表示指令部55は、リアルタイムの『貯留体積量』、あるいは、確定された『貯留体積量』を、『貯留体積量モード』におけるディスプレイ45に表示させる。表示指令部55は、演算部51、ディスプレイ45、に接続されている。表示指令部55に備えられている記憶部57は、各種情報を記憶・消去可能に構成されている。記憶部57には、記憶された穀粒の水分値やタンパク値毎の『比重値』が予め記憶されている。また、記憶部57には、演算部51から入力される確定された『貯留体積量』が記憶される。また、詳細は省略するが、記憶部57には、エンジン11における燃料噴射量の積算値である『燃料消費量』がリアルタイムに記憶されるように構成されている。表示指令部55は、演算部51からリアルタイムの『貯留体積量』を入力している間は、『貯留体積量モード』における

るディスプレイ45に、そのリアルタイムの『貯留体積量』を『貯留体積量モード』におけるディスプレイ45に表示させ続ける。そして、表示指令部55は、演算部51から『読み出表示信号』を入力している間は、記憶部57に記憶されている確定された『貯留体積量』を『貯留体積量モード』におけるディスプレイ45に表示させ続ける。